Osaka University Knowledge Archive

Title	自然を感じ、対話する
Author(s)	
Citation	臨床哲学のメチエ. 2007, 16
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/12272
rights	
Note	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

Osaka University

自然を感じ、対話する

金曜日６限目の〈臨床哲学ゼミ〉に〈環境班〉ができて２年がたとうとしています。今回のメチエでは〈環境班〉の試みを紹介したいと思います。このゼミでは比較的〈医療／看護〉や〈教育／対話〉といった領域あるいは場面にコミットする形で活動をすることが多かったのですが「もう少し別の角度から臨床哲学を考えられないか」という思いから〈環境〉をテーマに数名が集まりひとつの班をつくりました。

まず〈環境班〉として環境にアプローチする際に注目したのが〈エコツアー〉ならびに〈自然観察会〉という活動でした。１年目はエコツーリズムにかんする資料を読むだけでなく、実際にコースを考え、下見に行くという活動や、一般に開催されている自然観察会に参加し環境班としてどのような自然観察会が提供できるかについて考えました。実際に参加し、いろいろ検討を重ねていくうちにある疑問が浮かび上がりました。それは「自然観察会は環境を考えるきっかけになっているのだろうか」というものでした。そしてそうした疑問に応えるために持ち込まれたのが〈哲学カフェ〉というキーワードでした。〈哲学カフェ〉とは、臨床哲学研究室が以前から行ってきた、人びとが対話を通して哲学する営みですが、自然観察会の中でそうした参加者同士が対話をする時間をもつことが、従来の自然観察会よりも参加者にとって環境に目を向けるきっかけにつながるのではないかと考え、そういう主旨の報告を行いました。

２年目の活動は主にこの「自然観察会の中に哲学カフェを組み込む試み」を実際に企画し、実行することにあてられました。場所は大阪府吹田市にある「万博記念公園」を使って７月と１１月の２回開催しました。

さて、以下では環境班の試みを具体的に報告したいと思います。「環境班としての自然観察会」はまだまだ試行段階という面があり本当に報告に値するのかはわかりません。ただ、活動の内容や自然観察会に参加していただいた方々の声を２年間の記録として残すことによって、次の活動につなげていけたらと思います。　　（文責　樫本直樹）